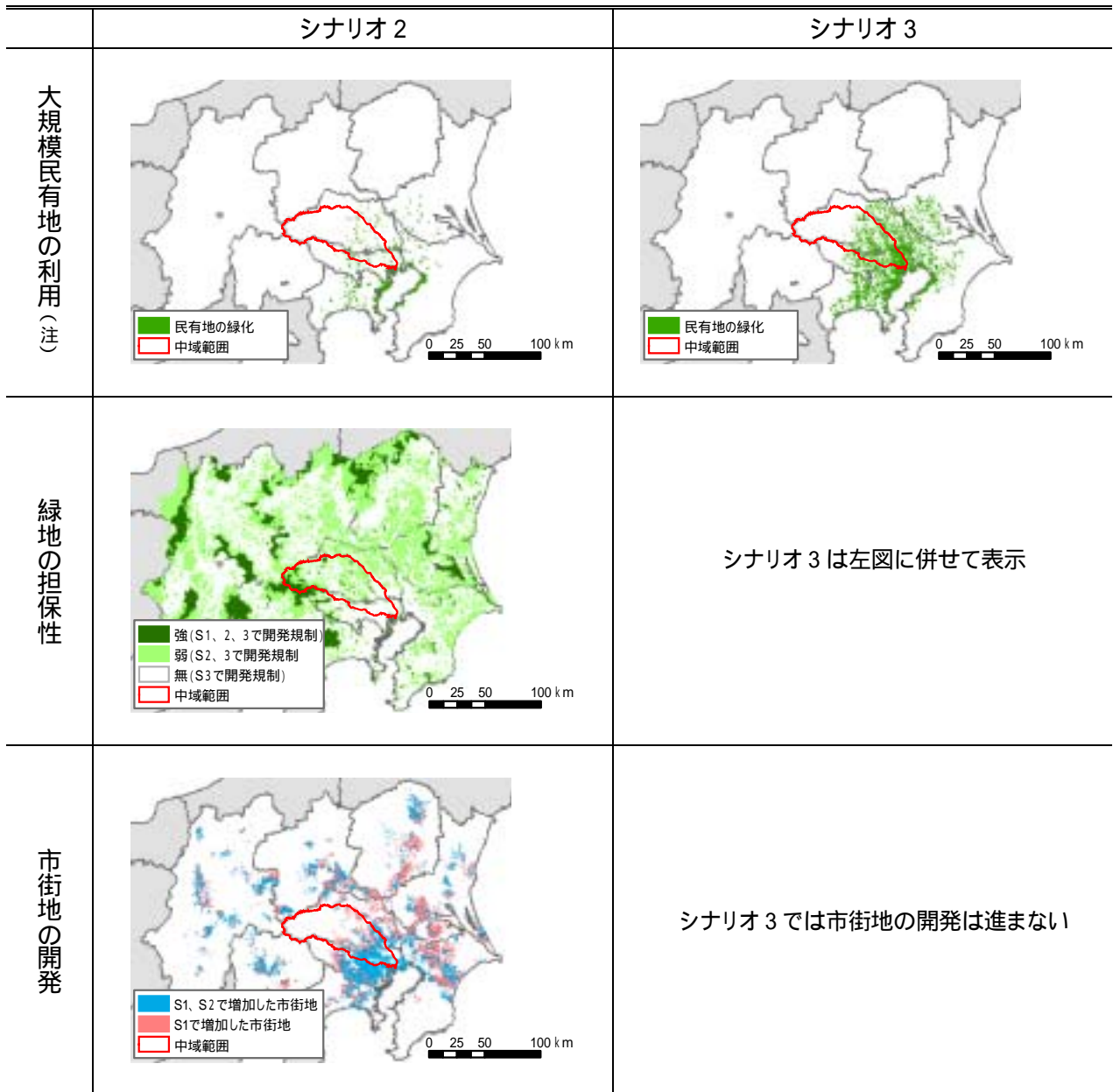


図-3.3.3.7(1) 広域スケールにおける施策シナリオ実行後の30年後の土地利用の予測結果



注)大規模民有地の利用については、データが整備されている都心部のみ対象

図-3.3.3.7 (2) 広域スケールにおける施策シナリオ実行後の30年後の土地利用の変化

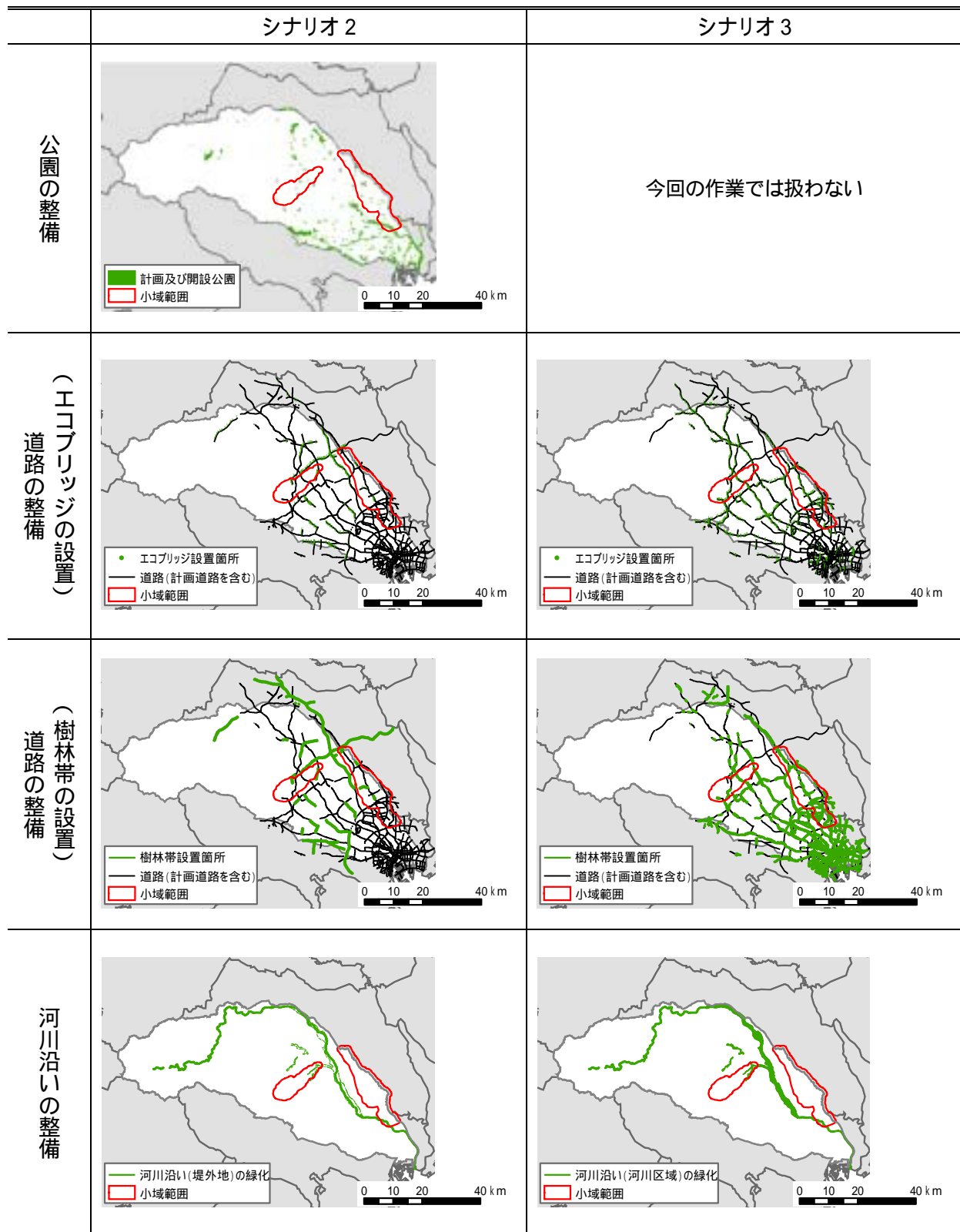
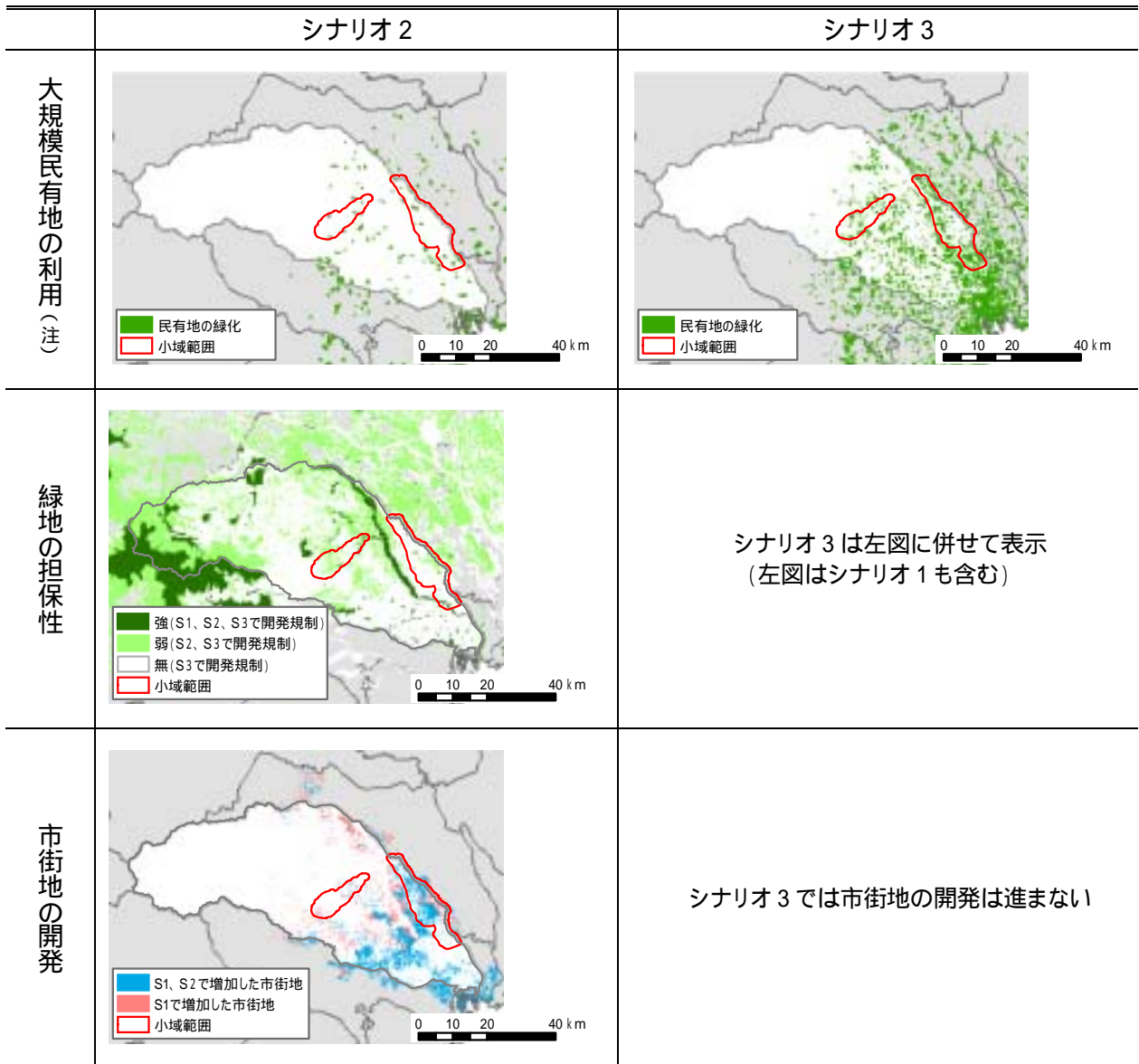


図-3.3.3.8 (1) 中域スケールにおける施策シナリオ実行後の30年後の土地利用の変化



注)大規模民有地の利用については、データが整備されている都心部のみ対象

図-3.3.3.8 (2) 中域スケールにおける施策シナリオ実行後の30年後の土地利用の変化

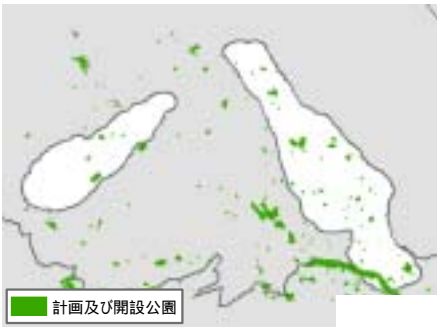
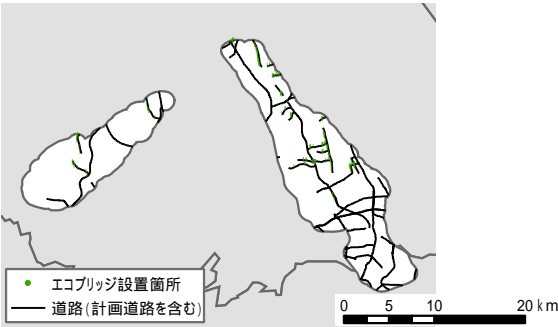
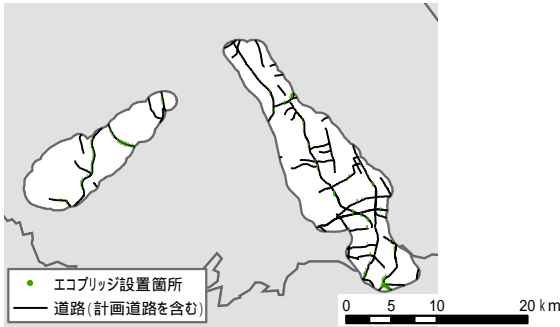
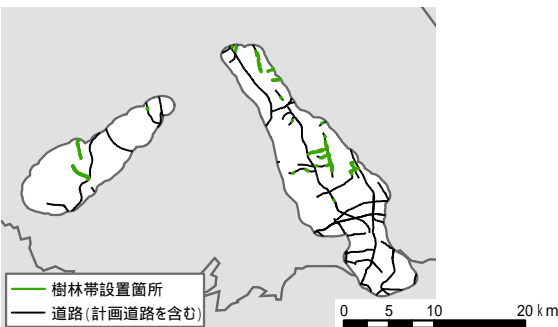
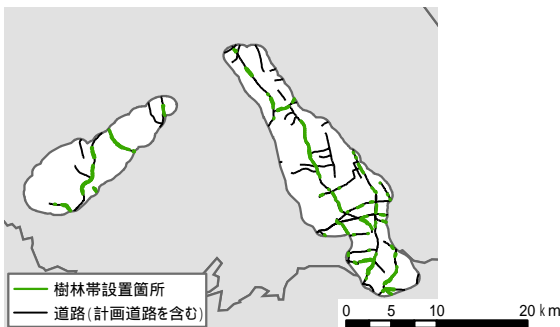
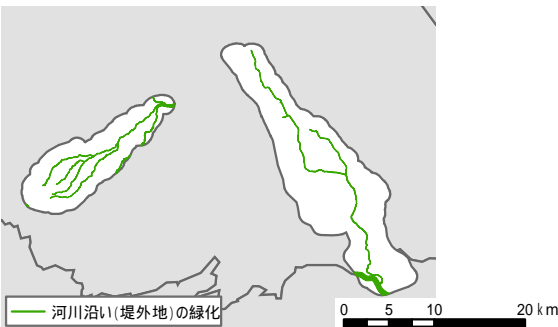
|                      | シナリオ 2  | シナリオ 3   |
|----------------------|---|--|
| 公園の整備                |  <p>計画及び開設公園</p>                   | 今回の作業では扱わない  |
| (エコブリッジの設置)<br>道路の整備 |  <p>エコブリッジ設置箇所<br/>道路(計画道路を含む)</p> |  <p>エコブリッジ設置箇所<br/>道路(計画道路を含む)</p> |
| (樹林帯の設置)<br>道路の整備    |  <p>樹林帯設置箇所<br/>道路(計画道路を含む)</p>  |  <p>樹林帯設置箇所<br/>道路(計画道路を含む)</p>  |
| 河川沿いの整備              |  <p>河川沿い(堤外地)の緑化</p>             | シナリオ 3 はシナリオ 2 と同じ   |

図-3.3.3.9 (1) 小域スケールにおける施策シナリオ実行後の30年後の土地利用の変化



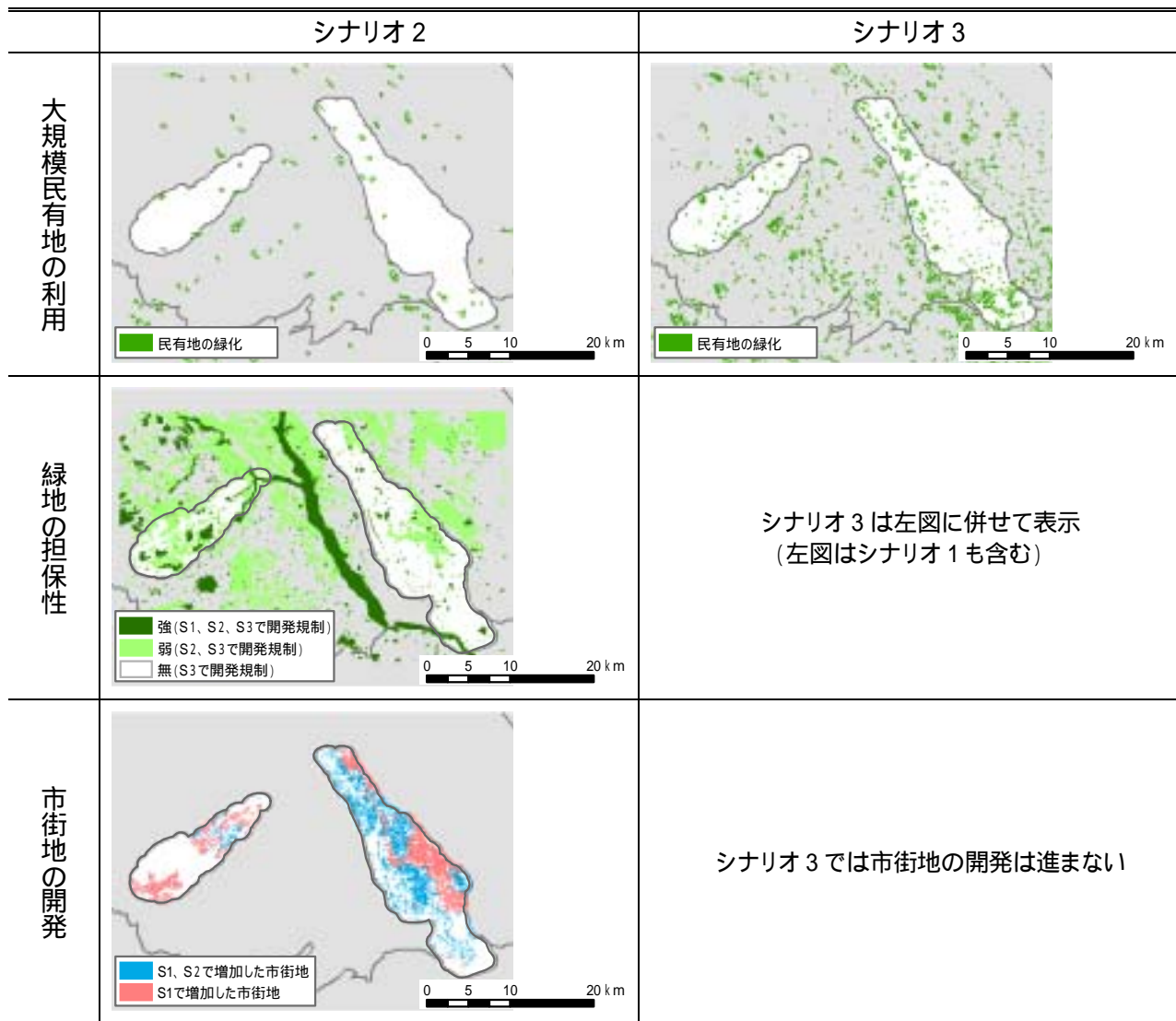


図-3.3.3.9 (2) 小域スケールにおける施策シナリオ実行後の30年後の土地利用の変化

### 3) 施策シナリオ別の土地利用の変化状況

施策シナリオの実行結果に基づき、30年後の土地利用の変化を算出し、現況の土地利用と施策シナリオ実行後の土地利用について比較した(図-3.3.3.10)。広域スケールでは、シナリオ1の実行によって緑地面積(現状の樹林地や環境改善施策により増加した樹林地、草地・水田などの合計面積)は0.5%減少したが、シナリオ2で0%(変動なし)、シナリオ3で0.6%増加した。中域スケールでは、シナリオ1の実行によって緑地面積は0.5%減少したが、シナリオ2で0.2%増加、シナリオ3で2.8%増加した。小域スケールでは、シナリオ1の実行によって緑地面積は4.5%減少し、シナリオ2では環境改善施策による樹林地が増加したが、緑地全体では0.6%減少した。シナリオ3では3.1%増加した。

次に、市区町村ごとの樹林面積(現状の樹林地や、環境改善施策により増加した樹林地の合計面積)の変化割合を図化し、土地利用の変化を把握した(図-3.3.3.11~図-3.3.3.13)。広域スケールでは、シナリオ1の実行によって都心部で樹林地が減少したが、都心近郊では樹林地が

増加した。シナリオ2においても、シナリオ1と同じ傾向であったが、荒川周辺部における樹林地の増加が顕著であった。シナリオ3では、河川沿いや東京湾周辺を中心に樹林地の増加が見られた。

中域スケールでは、シナリオ1の実行によって都心部で樹林地が減少し、都心近郊では樹林地が増加した。シナリオ2では、一部を除き全体的に樹林地が増加した。シナリオ3では、樹林地が増加する地域は無くなり、都心部を中心に樹林地の増加が見られた。

小域スケールでは、シナリオ1の実行によって、浦和市、大宮市、与野市（現さいたま市）や川越市で樹林地が減少し、他の地域では樹林地の面積変化はなかった。シナリオ2では、浦和市や伊奈町を除き、全体的に樹林地が増加した。シナリオ3では、樹林地が増加する地域は無くなった。

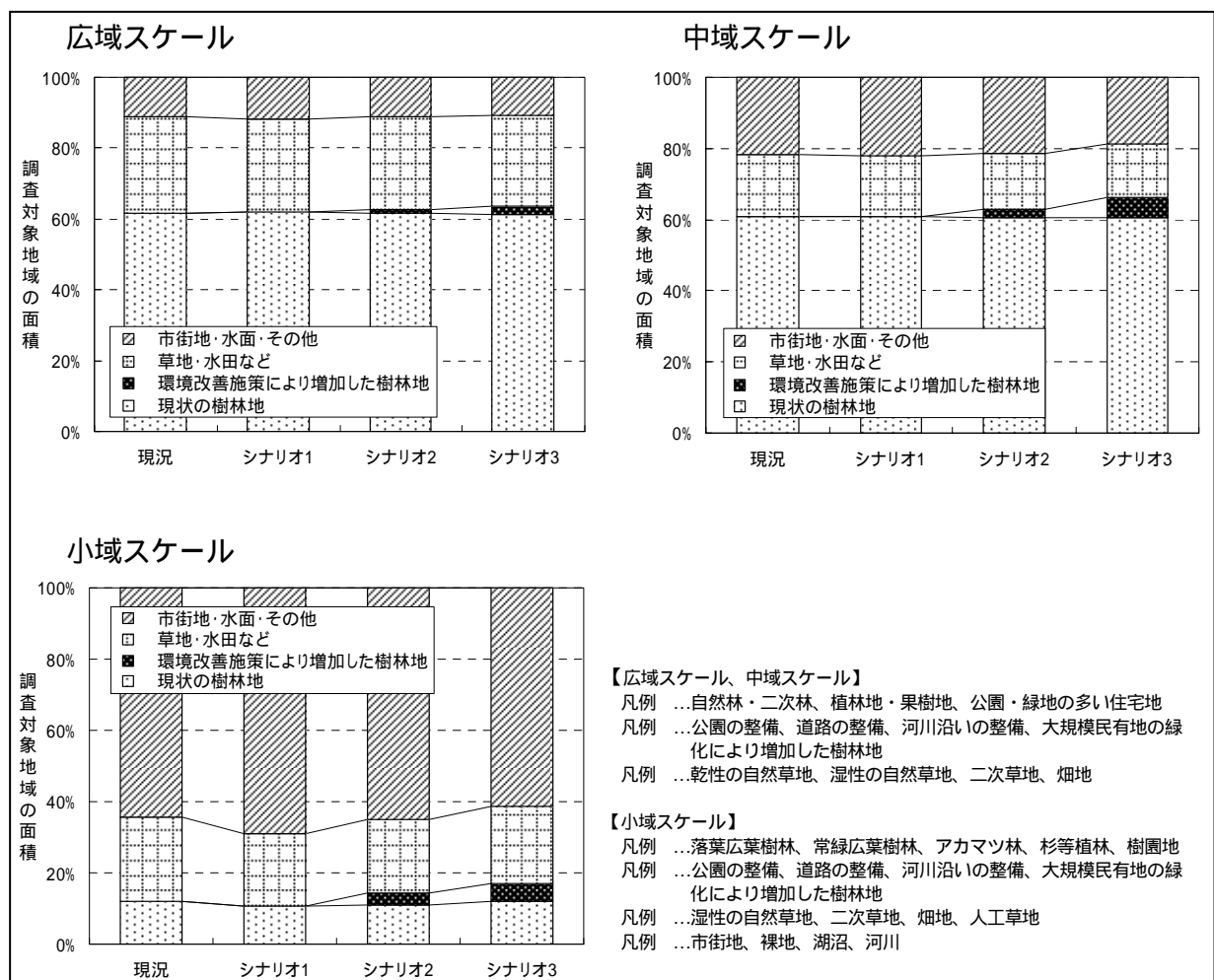


図-3.3.3.10 各スケールにおける30年後の土地利用の変化